

「2018 年のふたご座流星群観測 (5)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

北極圏では、日本とは星の見え方がちがう。ふたご座も比較的地平線に近い為、そこを中心に流れる流星も、地平線に沿って横に飛ぶものが多い。



この写真は、今回のふたご群の流星の中で、一番良い位置に飛んだものだ。プレアデス星団 (すばる)、ヒアデス、アルデバラン、それにウィルタネン彗星の間を、見事に明るい流星が飛んでいる。



こちらの写真には、右下に 2 個の流星が同時に写っている。写真は 15 秒の露光で撮ったものなので、2 個

の流星が完全に同時に飛んだとは限らない。15 秒の間に 2 個の流星が飛んだということだ。実はこの「2 個の流星が 1 枚の写真に写っている」ということが、流星群の観測では非常に重要なのだ。

1 枚の写真に 1 個の流星しか写っていない場合、流星が飛んできた方向はわかるが、どこが輻射点なのかは特定できない。しかし 2 個が同時に写っていると、その流星の軌道を延長した交点が、およその輻射点と特定できる。



上図は、左下の写真をあえて縦位置 (地面が左) にし、流星と輻射点の関係を分析した結果である。ふたご座流星群の輻射点 (流星が放射状に飛ぶ中心点) は、ふたごの右側の恒星「カストル」付近であることが知られている。写真を分析し、2 個の流星の軌道を延長すると、まさしくカストル付近で交わる。流星もただ眺めるだけでなく、こうした基本的な性質をしっていると、観望が楽しくなるだろう。